

武蔵工業大学後援会誌[マイコム]

MI-COM

no. 39 2009.1

後援会副会長挨拶……p1
平成20年度「大学と父母との連絡会」取材レポート……p2
平成20年度 就職動向と支援……p5
キャンパス Spot ⑮……p7
クラブ活動紹介 ⑳……p9
Campus Topics……p13
「マイコム」バックナンバー表紙一覧……p14
平成20年度「大学と父母との連絡会」実施結果……p15

写真：第79回 MI-TECH祭



後援会副会長挨拶

自律的に行動できる人



武蔵工業大学後援会副会長

平井 忠雄

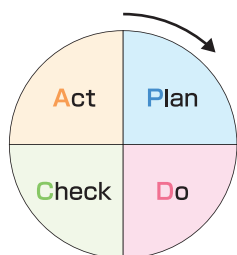
本年4月副会長に就任した平井です。このたび原稿執筆の依頼を受け、私の体験から、企業で求められている「自律的に行動できる人」についてお伝えします。

学生の本分は、「よく学び・よく遊ぶ」ことと存じます。言い換えれば社会の仕組みやルールとの関わりの中で、学び、遊び、体験を通して人格を形成していくのが学生時代かと考えます。

幸いにして皆さんは自由に活用できる多くの時間を創り出すことが可能です。その創り出した時間をどうしたら「よく学び・よく遊ぶ」ことに使えるかを大いに工夫して下さい。

さて、「自律的に行動できる人」とは、自分自身で、今、何をすべきか?ということを考え、考えた事を積極的に発信し、ディスカッションしながら自らの意思でPDCAサイクルを実践できる人です。

*PDCAサイクルの考え方は、製造プロセス品質の向上や業務改善などに広く用いられ、ISO9001、ISO14001などの管理システムや「仕事の基本」を表すためにも用いられることが多い。



- | | |
|---------------------|---------------------------------|
| Plan(計画) | : 従来の実績や将来の予測などをもとにして業務計画を作成する。 |
| Do(実施・実行) | : 計画に沿って業務を行う。 |
| Check(点検・評価) | : 業務の実施が計画に沿っているかどうかを確認する。 |
| Act(処置・改善) | : 実施が計画に沿っていない部分を調べて処置をする。 |

出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

武蔵工業大学は、全国で大学初の「国際環境規格ISO14001」を取得。また環境情報学部による教育プログラムが文部科学省の「現代GP (グッドプラクティス)」に採択。等、学生や教職員の皆様にとって『誇りの持てる大学』という目標を実現するために様々な改善に取り組んでおられます。

皆さんが学生時代の体験を通して、日常のちょっとしたことにでもPDCAの視点をもって臨み、明日は今日より良い成果を出そうと考え、具体的に行動してPDCAのサイクルを回し続ける人を目指すことを切に希望します。

毎年、後援会と大学の共催により実施される「大学と父母との連絡会」。
平成20年度も、全国各地の会場で行われた会に多数のご父母に出席いただき、
9月27日(土)の世田谷キャンパス(工学部・知識工学部)と
横浜キャンパス(環境情報学部)での
盛会をもって無事閉幕となりました。
皆様の感想などを交えながら、
その日の模様をレポートします。



※ 高瀬経行後援会長



※ 中村英夫学長

東京都市大学の誕生を控え 発展する大学を生身で体感

恒例となっている『大学と父母との連絡会』は、武蔵工業大学の教育、研究、キャリアサポートなどへの取り組みを大学側から報告するだけでなく、日頃ご父母が抱えているさまざまな疑問を教員や職員、卒業生から回答してもらえ、文字通り、双方向の“連絡会”です。

平成20年度は、9月6日(土)の地方会場でスタート。その掉尾を飾る9月27日(土)の東京会場(世田谷キャンパス)と横浜会場(横浜キャンパス)の模様をご紹介します。

長い夏も終わり、この日はすっかり秋の気配。雲間に時折太陽が顔を覗かせる、過ごしやすい一日となりました。東京会場には921名、横浜会場に319名と、たいへん多くの方々が参加されました。



※ 受付の様子(世田谷)



世田谷キャンパスでは、午前11時の受付を済ませたご父母のみみなさまが、午後1時からの『全体説明会』を前に、まずはSAKURA CENTER#14内の学食で、学生たちの活力源と

※ 参加されたご父母の方々の感想

世田谷 キャンパス

※ 平出 太郎君(建築1年)のお父さん
施設やキャンパスの雰囲気を知りたくて来ました。全体的に落ち着いていて、真面目そうな学生が多いですね。



※ 中込 洋平君(機械4年)のお母さん
息子が卒業する前に、大学の面影を心に焼き付けたいと思いました。都市大の新たな出発には期待しています。



※ 小野 佑馬君(情報ネット1年)のお父さん
校名が変更になることについては、違和感はありません。むしろ新しい名前の方が好感度が高いように思えます。



横浜 キャンパス

※ 大野 博之君(情報メディア2年)のお父さん
とてもきれいで静かなキャンパスですね。先生との話し合いや、課外活動の紹介など、有意義な集まりだと思います。



※ 渡辺 龍太郎君(環境情報1年)のお母さん
名称変更に伴い、今後この大学が何を目指し、環境面ではどんなことに取り組んでいくのか聞きたくて来ました。



※ 鳥山 詩織さん(情報メディア1年)のお母さん
クラス担任の先生にお会いしたくて来ました。学食は一般の方にも開放されており、利用したいですね。





※昼食は学生食堂で。
「ボリューム満点」の声も (世田谷)



※学食のメニューを試食。おいしいと評判でした (横浜)

なっているメニューを試食。その後のキャンパス見学では、特に最新鋭設備満載の図書館や、2008年度の建築学会賞(作品賞)を受賞した新建築学科棟などに注目が集まりました。午後12時15分からは『課外活動紹介』。吹奏楽団の迫力ある演奏に拍手喝采が起こりました。

そうこうしているうち、いよいよ『全体説明会』の始まりです。最初に中村学長が、来年度から武蔵工業大学を“東京都市大学”に名称変更すること、都市生活学部と人間科学部の文系2学部を開設することなど一連の大学改革について報告。「3つのキャンパスを、シャトルバスを増発して有機的に結合。多様な学生、教職員との交わりを通じて教育と研究を活性化します」などと語りました。また、昭和大学や多摩美術大学、室蘭工業大学との包括的な連携、中途退学者抑止対策、海外

研修や留学、大学院への進学を積極的に推奨することなど、多様な施策が紹介されました。

続く片田工学部長は、進学や就職などキャリアサポート体制などについて語った後、「父母と大学が連携して、無限の可能性を秘めた学生たちを育てましょう」と熱のこもったメッセージを送りました。宮内知識工学部長は、学部の概要を解説した後、昨年以上の入学希望者が集まっていること、学生の満足度を高める教育と研究を進めていくためのビジョンを策定したことなどを報告。「より充実した学部にしていく」と、宣言されました。また、高瀬後援会長は、後援会の歴史や行事などを説明後、「この大学に入って良かったと思えるよう、みなさんの活動を支援していきます」と、力強い言葉で締めくくりました。

午後2時から、『学科・学年別の説明・懇談会』を実施。各学科の方針などが説明された後、質疑応答の時間が設けられ、生活面でのアドバイスも行われました。その後、希望する方には個別面談が実施され、順次解散となりました。

※世田谷キャンパスの
課外活動の紹介では、
吹奏楽団が演奏を披露



※建築学科説明会 (世田谷)

※小川 慧君 (応用情報1年) のご両親
子どもの学んでいる環境や、その指導方針が理解でき、有意義な会でした。緑豊かな閑静な大学で好感がもてました。



※方波見 悠祐君 (電気電子1年) のお母さん
息子が学ぶ大学の環境を知りたくて。大学に来るのは今回が2回目。以前も感じましたが、とても明るくて開放的です。



※尾崎 勇介君 (機械1年) のお父さん
歴史と伝統のある大学でありながら、校舎を新しくするなど、学習環境に配慮している点が良いと思います。



※白倉 和也君 (都市1年) のご両親
いつ来ても落ち着いた雰囲気になります。今回は、就職に強いという評判を聞いていたので、そのあたりを確かめに来ました。



※竹内 洋平君 (情報メディア3年) のご両親
子どもがあまり大学の話をしてくれないので、毎年参加しています。今年はとくに就職のことを聞いて帰ります。



※相島 弘和君 (環境情報4年) のご両親
会が終わった後、ゼミの先生と面談する予定です。就職するか、大学院進学を選ぶか、ヒントがもらえるとういすね。



※野徳 浩樹君 (情報メディア2年) のお父さん
事例研究や就職面での取り組みに興味があります。パワーポイントを使った分かりやすい説明に感心しました。



※石井 賢佑君 (環境情報1年) のご両親
学生のことを真剣に考えてくれる学部との印象を受けました。来年から総合大学化する点にも好感を持っています。





一方の横浜キャンパスでは、午前10時に受付を開始。10時30分から『全体説明会』が始まり、中村学長、増井環境情報学部長、高瀬後援会長、吉崎教務委員長、家木横浜キャンパスキャリア委員会委員の順に説明に立ちました。学長は、環境情報学部が教育、研究、就職面で大きな成果を出していることなどを強調。増井環境情報学部長は、日本の大学として初めて環境ISOを取得したエコキャンパスや、学部の教育・研究方針、学園祭でのカーボンオフセットの試みなどについて、高瀬後援会長は、後援会の活動内容などを紹介しました。吉崎教務委員長は、パワーポイントを使って、修学意欲を高めるための工夫や、コース制の運営方法、学生による授業評価制度など教育面での施策について解説。家木キャリア委員からは、今年度の就職状況がおおむね良好だったことや、就職活動のポイントなどについての話があり、参加者は、メモを取るなど、非常に熱心に聞き入っていました。



※ 全体説明会（横浜）



※ 学年別懇談会。こちらは3・4年生会場です（横浜）

11時40分からは、4号館の学生食堂で昼食。全体説明会が若干長引いたため、期せずして『課外活動紹介』の音楽団体PLAMによる生演奏を楽しみながらの優雅なランチタイムとなりました。午後12時50分から『学科・学年別懇談会』を開始。熱のこもった質疑応答を経て、午後2時に散会となりました。

参加されたご父母から頂いたご意見は、「親しんだ校名が変わることには少し寂しさもあるが、進化の過程と考えたい」「教育や研究の方針が良く分かった」などとおおむね高評価でした。

本年度、全国の連絡会に参加いただいたご父母の皆様は合計1,246世帯。来年はさらに多くの皆様に参加されることを希望しています。

大学会場以外にも全国20会場で実施

東京・横浜地区以外にも、全国20会場で「大学と父母との連絡会」が開催されました。ここでは静岡会場の様子をお伝えします。

※ 静岡会場 最大の関心事は「就職」

校友課長 若月 博雄

静岡市における連絡会は、9月7日（日）、静岡駅前「ホテルセンチュリー静岡」において開催されました。同県出身の在学生数は、神奈川県、東京都に次いで3番目に多いため、静岡市の他、三島市、浜松市の計3会場で開催を実施しております。中でも県央の静岡会場には、毎年地方会場最多の出席人数があり、今年度も前年比31%増の54世帯69名のご父母の皆様がご参加くださいました。

午前10時から始まった連絡会では、工学部長の片田教授、建築学科の岩下教授による大学の近況報告、事務方による学修（授業・成績）・学生生活・就職などに関する説明と続き、さらに武蔵工業会（同窓会）静岡支部の相川支部長からはUターン就職を中心とした静岡での就職状況などについてご紹介いただきました。本学卒業生の多方面に渡る活躍の様子を知ることができ、安心されたご父母の皆様も多かったのではないのでしょうか。

最後の質疑応答では、「校名変更の在学生へのフォローは充分だったか？」「校名変更は就職に影響はないのか？」「雇用状況の変化にどのような就職指導をしているか？」「生体医工学科の就職支援策は？」等々の活発なご質問・ご意見をちょうだいしました。また、閉会後は、ご希望の方のみですが個人面談をさせていただきました。



わずか2時間の連絡会でしたが、大学側といたしましては、この会をはじめ全国の連絡会で得られた貴重なご意見等を、大学運営に真摯に生かさなければと気持ちを新たにしております。

参加されたご父母の方々の感想

※ 内田 安曇さん（環境エネルギー3年）のお父さん
毎年のこの会に参加しており、3回目の来校です。学食のメニューは、男子学生が多いだけあってボリュームたっぷりですね。



※ 大森 了太郎君（コンピュータ4年）のお父さん
この会には毎年参加しています。今日は、4年間息子がお世話になったことへの感謝を込めてまいりました。



※ 小林 佑輔君（情報メディア3年）のお母さん
就職について実体験をもとにした話を聞けるのがいいですね。校名変更で、女子が増えるかも。



※ 増 憲士朗君（環境情報3年）のお母さん
全体説明会では、親の私も就職に対する意識を高めることができました。生の体験談をもっと聞きたくなりました。



平成20年度の就職動向と支援

求人情報は、景気の回復基調による企業の経営状態の好転と事業の拡大、団塊世代の定年退職問題で人手不足感が強まるなか、ここ3年の採用環境は急速な高まりを見せてきました。とはいえ、企業が学生の能力・適性・熱意を重視する採用の傾向に変化は見られません。

今年は企業側と学生との接点となるセミナー、説明会の開始時期が昨年より早まったように感じられました。しかしながら、大手企業の採用活動については、5月末頃までに内定を出し終え活動を終了した企業と、9月に入っても採用活動を継続している企業とで業種により活動状況に差があったように思われます。

企業の採用活動のキーワードは「早期化」「厳選化」「多様化」であり、そのキーワードに対処すべく本学の就職課および学生・就職センターは、学生の就職支援に力を注いでいます。

そのような採用環境の下、本学の就職希望者における内定率は、きめ細かい就職指導・支援(別表、就職・進学活動スケジュール参照)やOB・OGリクルーターによる積極的な採用サポートによって、学生個々の就職に対する意識が向上したこともあり、それぞれ工学部91.0%、大学院工学研究科89.3%、環境情報学部83.3%、大学院環境情報学研究科89.3%、という昨年を上回る好成績を収めております。

平成20年度求人就職内定状況 (平成20年12月1日現在)

	学科・専攻	項目	就職希望者	内定者	内定率 (%)	進学希望者
工 学 部	機械工学科		91	89	97.8	28
	機械システム工学科		80	71	88.8	28
	電気電子情報工学科		62	60	96.8	34
	電子通信工学科		63	51	81.0	27
	コンピュータ・メディア工学科		68	58	85.3	30
	建築学科		73	52	71.2	37
	都市基盤工学科		80	72	90.0	32
	システム情報工学科		71	67	94.4	19
	環境エネルギー工学科		49	43	87.8	24
	小 計		637	563	88.4	259
大学院 工学研究科	機械工学専攻		25	22	88.0	1
	機械システム工学専攻		22	22	100.0	2
	電気工学専攻		84	83	98.8	2
	建築学専攻		30	27	90.0	2
	都市基盤工学専攻		14	14	100.0	0
	システム情報工学専攻		24	24	100.0	1
	エネルギー量子工学専攻		24	22	91.7	3
	小 計		223	214	96.0	11
	合 計		860	777	90.3	270
環境情報学部	環境情報学科		175	157	89.7	22
	情報メディア学科		202	170	84.2	5
	小 計		377	327	86.7	27
大学院 環境情報学研究科	環境情報学専攻		25	17	68.0	2
合 計			402	344	85.6	29

平成20年度主な就職内定先企業等 (平成20年12月1日現在) ※数値は就職内定者数

工学部・大学院工学研究科

■輸送用機器

本田技研工業……………12

スズキ……………10

日産自動車……………7

マツダ……………4

トヨタ自動車……………3

日野自動車……………3

■機械

富士重工業……………6

小松製作所……………2

三菱重工業……………1

■精密機器

キヤノン……………10

ニコン……………4

オリンパス……………3

富士ゼロックス……………3

セイコーエプソン……………2

■電気機器

日立製作所……………11

東芝……………10

NEC……………9

沖電気工業……………4

シャープ……………3

三菱電機……………3

パイオニア……………3

ソニー……………2

リコー……………2

ローム……………2

富士通……………1

パナソニック……………1

オムロン……………1

京セラ……………1

■情報通信

KDDI……………3

NTT東日本……………2

NTTドコモ……………1

NTTデータ……………1

■電力

東京電力……………3

東北電力……………1

■運輸

JR東日本……………9

JR東海……………6

京王電鉄……………1

■建設

清水建設……………5

大成建設……………3

大林組……………3

積水ハウス……………3

大和ハウス工業……………3

鹿島建設……………2

竹中工務店……………2

■その他

ブリヂストン……………3

凸版印刷……………3

大日本印刷……………1

電通……………1

東京都……………4

横浜市役所……………3

川崎市役所……………1

環境情報学部・大学院環境情報学研究科

■電気機器

日立製作所……………5

NEC……………4

富士通……………2

キヤノン……………2

リコー……………2

日本IBM……………1

日本ヒューレット/パッカード……………1

■運輸用機器

関東自動車工業……………1

■その他製造

凸版印刷……………3

大日本印刷……………2

YKK AP……………1

立川プラインド工業……………1

レンゴー……………1

■建設業

旭化成ホームズ……………2

積水ハウス……………1

大和ハウス工業……………1

協和エクシオ……………1

■情報・通信業

CSKホールディングス……………3

ソフトバンク……………2

大塚商会……………2

NTTデータ……………1

野村総合研究所……………1

日本総合研究所……………1

ハドソン……………1

ジュビターテレコム……………1

イーアクセス……………1

■情報処理産業

みずほ情報総研……………3

■サービス業

セコム……………2

ベネッセコーポレーション……………2

ビクターエンタテインメント……………1

楽天……………1

エン・ジャパン……………1

オリエンタルコンサルタンツ……………1

■卸売業

キャノンマーケティングジャパン……………1

■小売業

セブンイレブン・ジャパン……………2

■陸運業

日本通運……………2

東京急行電鉄……………1

JR東海……………1

JR西日本……………1

新京成電鉄……………1

■銀行業

ゆうちょ銀行……………1

横浜銀行……………1

■保険業

日本生命保険相互会社……………2

住友生命保険相互会社……………1

東京海上日動火災保険……………1

■その他金融業

オリックス……………1

■その他

郵便局……………3

警視庁……………2

横浜市役所……………1

茅ヶ崎市役所……………1

(社)産業環境管理協会……………1



● 就職・進学活動スケジュール

● 工学部・知識工学部

1・2年生（進路・勉強方法を考える）

- 4月 ◎△▲自己発見レポート(1年生)
◎△▲自己プログレスレポート(2年生)
◎△▲自己発見レポートフォローガイダンス
◎△▲自己プログレスフォローガイダンス
◎△▲就職講演会
- 8月 ◎インターンシップ等に積極的に参加
- 10月 ◎卒業生による業界研究会

3年生（進路についてより具体的に考える）

- 4月 ◎職業適性検査
◎職業適性検査フォローアップガイダンス
△進学予定者対象の進学説明会
△図書館にて過去の入試問題を確認
- 6月 ◎各学科就職ガイダンス(第1回)
◎就職講演会(3回)
●公務員説明会(2回)
▲他大学または留学先より資料を取り寄せ
情報収集活動開始
- 7月 ◎就職講演会(2回)
- 8月 ◎インターンシップ等に積極的に参加
●公務員試験対策集中講座
- 9月 ◎各学科就職ガイダンス(第2回)
◎就職講演会
◎Uターン就職ガイダンス
- 10月 ◎就職講演会(全4回)
◎卒業生による業界研究会
◎学内業界研究会
◎自己分析・エントリーシート対策(全4回)
◎就職試験対策(SPI・一般常識)(1月まで)
◎リクルートファッションセミナー
●公務員試験模試(5月まで)

- 11月 ◎学内業界研究会
◎公開模擬面接講座
◎公開グループディスカッション講座
◎面接&グループディスカッション実践講座
◎エントリーシート個別対策講座
●公務員説明会
△進学予定者対象の進学説明会
- 12月 ◎業界・企業研究、エントリー
◎学内企業研究会
◎各学科就職ガイダンス(第3回)
◎就職講演会(2回)
◎面接&グループディスカッション個別対策(3月まで)
- 1月 ◎エントリーシート個別対策講座
- 2月 ◎学内企業研究会
●国家公務員採用試験申込書入手
●地方公務員採用試験申込書入手
●公務員試験対策集中講座
△推薦資格取得のための大学院認定試験
- 3月 ◎学内での希望調査、推薦者決定

4年生（就職、進学活動の本番です）

- 4月 ◎各学科就職ガイダンス(第4回)
●国家公務員採用試験申込書提出
●地方公務員採用試験申込書提出
△大学院入学試験(A日程)募集要項入手・願書提出
▲指導教授と相談の上、進学先の検討
- 4～7月 ◎採用試験(3月から開始の企業あり)
◎採用内々定
●国家公務員採用試験(1次)
●国家公務員採用試験(2次)
●官庁訪問(国家公務員)
●地方公務員採用試験(1次)
●地方公務員採用試験(2次)

- 5月 △大学院入学試験(A日程)
- 6～8月 ●採用内内定(国家公務員)
- 8月 ●地方公務員採用試験合格発表
(翌年1月頃までに内定)
△▲大学院入学試験(B日程)
学生募集要項入手・願書提出
- 9月 △▲大学院入学試験(B日程)
- 10月 ◎採用内定
◎学内での採用内定報告手続
- 1月 △▲大学院入学試験(C日程)
学生募集要項入手・願書提出
- 2月 △▲大学院入学試験(C日程)
- 3月 卒業式

資格講座（全学年対象）

- 6月、7月、11月 ●公務員ガイダンスおよび講座説明
- 8月、2月 ●公務員試験受験対策講座
- 10～5月 ●公務員試験模試
- 6月、11月 △本学大学院進学のための基礎科目
認定試験(数学、物理学、化学)

● 環境情報学部

1・2年生（進路・勉強方法を考える）

- 4月 ◎△▲自己発見レポート(1年生)
◎△▲自己プログレスレポート(2年生)
- 5月 ◎△▲自己発見レポートフォローガイダンス(1年生)
◎△▲自己プログレスフォローガイダンス(2年生)
- 6月 ◎△▲インターンシップ対策講座
- 8月 ◎△▲インターンシップ等に積極的に参加
- 10月 ◎△▲就職講演会

3年生（進路についてより具体的に考える）

- 4月 △▲大学院の各専攻内容や入試問題等を検討
◎△▲就職ガイダンス①「これからすべきこと」
◎就活オープニングセミナー①～⑥
◎職業適性検査
- 5月 ◎自己分析セミナー①～③
◎△▲インターンシップガイダンス
- 6月 ◎就活支援サイト活用セミナー
◎△▲自己分析相談会
◎質問力養成講座
◎インターンシップ選考対策講座
- 6月～7月 ◎前期業界研究会(全5回・各業界代表的企業を招聘)
- 7月 ◎職種研究セミナー
◎内定者座談会
◎SPI模試
◎環境就職相談会
◎就職ガイダンス②「夏休みの過ごし方」
◎就職ガイダンス③「自己分析講座」
- 8月 ◎△▲インターンシップ等に積極的に参加
- 9月 ◎△▲キャリアアプローズ
◎就職活動実践スタートセミナー
◎文章力強化講座(全5回)
- 9月～10月 ◎△▲進路希望面談(全員対象)

- 10月 ◎就職ガイダンス④「この時期のすべきこと」
◎CSR情報活用セミナー
◎就職ガイダンス⑤
「就活用語の基礎知識&企業セミナー対策」
- 10月～11月 ◎後期業界研究会(全8回・各業界代表的企業を招聘)
- 11月 ◎OBOGによる業界&職種研究会
◎新卒採用模試
◎環境就職相談会
- 12月 ◎面接対策セミナー
◎GD対策セミナー&演習
◎就職ガイダンス⑥「就活マナー講座・実践編」
◎新卒採用模試・解説講座
◎世田谷キャンパス企業研究会
(全3日間・代表的企業約120社を招聘)
- 1月 ◎企業研究会&学校推薦ガイダンス
- 1月～2月 ◎模擬面接&GD講座(全6回)
- 2月 ◎横浜キャンパス企業研究会
(全3日間・代表的企業約150社を招聘)
●国家公務員採用試験申込書入手
◎世田谷キャンパス企業研究会
(全3日間・代表的企業約120社を招聘)

4年生（就職、進学活動の本番です）

- 4月 ◎就職ガイダンス(求人状況・活動心得等)
◎学内での希望調査及び推薦者決定
▲指導教授と相談の上、進学先の検討
●国家公務員採用試験申込書提出
●地方公務員採用試験申込書入手
- 2～5月 ◎採用試験(年内から開始の企業あり)
◎採用内々定
●地方公務員採用試験申込書提出
- 5月 就職ガイダンス(活動アドバイス)
学内企業研究会②
△推薦入学(A日程)募集要項入手・願書提出
●国家公務員採用試験(1次)

- 6月 △推薦入学試験(A日程)
●国家公務員採用試験(2次)
●官庁訪問(国家公務員)
●地方公務員採用試験(1次)
- 7月 ●採用内内定(国家公務員)
- 7～8月 ●地方公務員採用試験(2次)
- 8月 △▲第1次試験(B日程)学生募集要項入手・願書提出
●地方公務員採用試験合格発表
(翌年1月頃までに内定)
- 9月 △▲第1次入学試験(B日程)
- 10月 ◎採用内定
◎学内での採用内定報告手続
- 1月 △▲第2次試験(C日程)学生募集要項入手・願書提出
- 2月 △▲第2次入学試験(C日程)
- 3月 卒業式

資格講座（全学年対象）

- 5～12月 課外英会話講座(40分/日・年間100回)
- 8月 ◎初級シスアド試験対策講座
- 9月 ◎公務員・SPI試験対策講座

記号意味【◎：就職希望者（○民間企業希望者、●公務員希望者）、△：本学大学院進学希望者、▲：他大学大学院希望者（留学含む）】



絵で見る

キャンパス SPOT ⑮

— 世田谷キャンパス11、12、13号館の巻 —



世田谷キャンパスの11号館（竣工昭和43年）、12号館（同昭和47年）、13号館（同昭和48年）には、現在主に工学部機械工学科と機械システム工学科の機械室、実験室、研究室、学生室などが所在しています。一見するとちょっと古びた印象ですが、そこでは技術立国日本を支える最先端の研究、技術開発が行われているのです。今回はその奥深くに潜入し、学生や先生の声を交え、驚くべき設備の一部をご紹介します。



11号館

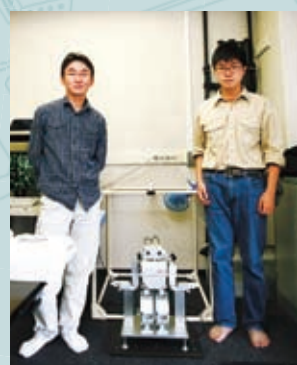
世田谷キャンパスのもっとも南側に位置している11号館（2147.15平米）。地下1階地上5階建ての建物内には、2つの機械工場の他、実験実習室や、宇宙開発、航空機開発などの先端的な分野に欠かせない材料、素材を探究する研究室が入っています。



3f



新しい人工衛星の開発や、大学ロケットの打ち上げ実現を目指す機械システム工学科の『宇宙システム研究室』（主宰：目黒在教授）。「これは、宇宙空間と同じ真空状態にして、電子線を照射する装置。衛星の外装材料の特性を研究しています」と渡邊力夫講師（右）が解説すると、上本一樹君（博士前期2年）（中央）と奈良坂威君（4年）（左）は「宇宙を目指してがんばります」とにっこり！



同じく3階の機械システム工学科『ロボティックライフサポート研究室』。右にある存在感のある物体は、「双腕ロボットで人間のように柔軟な作業を実現することを目指して研究をしています。今は新しいロボットシステムの構築中です。」（白井伸明君・4年）



「ロボティックライフサポート研究室では、人型ロボットのバランス制御についても研究しています。」と、4年生の岡本和晃君（左）。「ロボット全身を使った運動制御理論を自分たちで考え、それを実際に研究用ロボットへ適用して検証を行います。」（長尾孝君・修士2年）

4f

「このフロアには研究室オリジナル、つまり世界でたったひとつの装置がたくさん。市販の装置では測定不可能なものを測定しています」と、機械システム工学科『強度設計システム研究室』の秋田貢一教授（左）。この装置は



電子機器に使われるシリコン部品の強度などを測る『単結晶用X線応力測定装置』。（左から）4年生の渡邊暁君、武末直也君、竹田和也君は「独創的な研究に携われるのがサイコーです！」



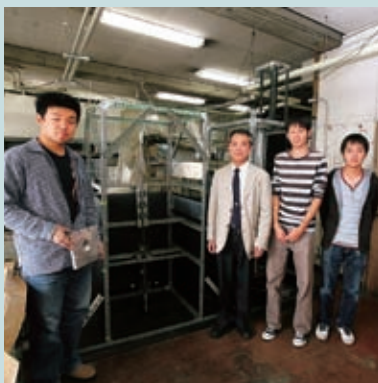
同じく『強度設計システム研究室』の大谷眞一教授（左）と研究室の学生たち。左から宮下大輔君（博士前期2年）、関口貴大君、池沼良章君、黒飛周平君（4年）。金属が疲労破壊して

いく過程をX線で測定するこの装置は、大谷先生が独自に製作したもの。静止した材料でなく、破壊に至る動的な状態をリアルタイムで測定できるのは世界中でこの一台だけだそうです。

5f

この階には、先端材料の特性を実験やコンピュータシミュレーションで解明する機械工学科の『材料力学研究室』があります。「軽くて強

靱な材料や部品を使えば、例えば自動車の燃費を高め、環境を守ることができます」と、大塚年久教授（装置右横）。第1実験室に置かれたこの装置は、外部から力を受けたときに材料がどう変形するかを調べるためのもの。左端の白崎智登君（修士2年）が手にしているのが、注目の構造材料、『ハニカム・サンドイッチ板』です。4年生の八木忠昭君（右端）と田中康訓君の説明によると「アルミ箔などを蜂の巣状に構成して強度を高めた材料。航空機や自動車のボディに用いられているんです」とのこと。



同じ階の第2実験室では、（左から）辻田勝人君（博士前期2年）、小林志好准教授、金塚昌平君、岡拓孝君、大内洋平君、碓目啓君（以上4年）が実験の真っ最中。「小さな傷を付けた金属に、この装置で力をかけて、どんな具合に破壊されるかを調べます」（辻田君）

12号館

11号館と隣接する12号館は、A棟（462.34平米）と、水素エネルギー研究センターが使用するB棟（187.62平米）とで構成されています。今回は機械工学科と機械システム工学科の中でも、とくに“エンジン”に関わる研究室がある、地上2階建てのA棟にスポットを当てました。



1F

機械工学科の「内燃機関実験室」。広々とした空間に、重厚なマシンが所狭しと設置されています。（右から）4年生の小野澤佑紀君、博士前期2年の佐藤俊介君、中村孝君、青木秀馬君が胸を張って語るには、「ちょっと汚れて見えるけど、全部最新鋭の実験機器ばかり。やっтерることも自動車メーカーとの共同研究など、超一流なんです!」。みなさん希望の会社に就職が決まり、「この大学で培った力を社会で存分に活かしたい」と意気盛んです。



12号館の離れ(?)に位置する工作室では、スタッフの糸川幸男さんが、樋口晃一君（博士前期1年）にただいま部品の加工法を熱心に伝授。実験に使う部品は、ほとんどすべて学生が自分で作り出す。ものづくりの基本から学ぶことで、社会に出て即戦力となる素養が自然に身に付くのです。



M2

内燃機関工学研究室の最奥部に鎮座する数台の「スパッタリング装置」。半導体用の装置を、エンジン内部の特殊計測センサー開発用に改造したものです。「この技術を用いたピストンや軸受、ギアなどの挙動解析及び効率と耐久性向上の研究成果は、国内外の自動車技術の研究開発に貢献し、国内外より高い評価を受けています。地球環境を見据えた自動車技術開発にあたり、本研究の成果が益々役立つことを願っています。」（三原雄司准教授）



2F

榎本良輝教授が主宰する機械システム工学科『熱流体システム研究室』の実験室。こちらは、研究室が独自開発した高精度温度センサーを搭載して、エンジンの熱効率を高める研究に用いられる装置。企業との共同研究も盛んです。青木勇太君（右）と、尾倉朗君の2人はともに4年生。大学院への進学が決まっています。「学部4年間の学習と研究を生かして、実社会で役立つ成果をあげたい」と、力強く語ってくれました。



13号館

12号館のはす向かいにある地上3階建ての13号館（1499.75平米）には、機械工学科『機械材料研究室』と、機械システム工学科『計測電機制御研究室』の諸施設のほか、都市工学科などの研究室も入っています。機械材料研究室ではすべてのマシンの基礎となる材料の新規開発を、計測電気制御研究室は超音波やレーザー光を活用し、宇宙開発やロボット開発に役立てています。



1F

『機械材料研究室』の高木研一教授が、博士前期1年の塩田雄介君と『真空焼結炉』の前にて。「1200～1500度の高温状態で焼き固め、切削工具やドリル、金型などに用いられる超硬合金代替材料を開発しています。資源の少ない日本にとって、希少金属を使わない素材の開発は緊急の課題」（高木教授）



機械材料研究室の各種実験装置をバックに、（左から）藤間卓也講師、野口司君（4年）、田中敦君（博士前期1年）、長田賢君（博士前期2年）、勘米良優君（博士前期1年）の面々。「機材はとても充実しています。ないものは、先生方が揃えてくれるんです。研究・学習環境は最高ですね」（長田君）

3F

『計測電機制御研究室』では、光と音を使って、多角的な研究を推進中。そのひとつが、超音波を利用して人工衛星外装部分（絶縁体）の帯電状態を測定する技術の開発です。「この測定装置は、極薄の0.1mm程度での電荷分布を測定できます」（田中康寛教授）（右）。（左から）4年生の白鳥勇介君、吉田潤一君、橋本卓也君、永田光君も、「宇宙空間という苛酷な環境の中で、すぐれた動きをする人工衛星開発に役立てたい」と、情熱いっぱいです。



3階の別の部屋では、レーザー光を使って絶縁体表面の電荷分布を測る研究を進めています。「これは目に見えない放電の状態を、コンピュータ解析で可視化する装置です」と4年生の岩品迅人君（左）。「見えないものを見るようにするって、エキサイティングですね」（川原朋也君・4年）。二人揃って自動車関連企業に就職が決まりました。



研究室の一番奥では、ロボット関連の研究を実施。「ほくがかがっているのがセンサー付きカメラ」（矢野潤一君・4年）と言えば、隣の畠山浩幸君（4年）が「そのカメラとほくの持っているロボットとが連動し、人の頭の動きに合わせて移動していきます」。前澤卓也君（博士前期2年）（右端）は、「そのロボットは災害時のレスキューなどのために用いられます」



クラブ活動紹介②6



シーズンごとにめきめき実力をつけ、

理工系大学ではトップに君臨する「ソフトテニス部」と、

初心者から上級者までがプレイを存分に楽しみながら、

仲間との結束を高めていく「テニスサークル Circus」。

今回ご紹介する両団体は、期せずして“テニス”つながりとなりました。

わずか3年で9部から5部に昇格。部員全員が一丸となって上を目指す

ソフトテニス部



顧問：横山真一郎
(応用情報工学科教授)

学生責任者：早瀬徹矢
(環境エネルギー工学科3年)

部員数：31名(うち女子10名)

主な活動

4月 新入生歓迎会
5月 関東学生春季リーグ戦
6月 関東理工科系学生春季リーグ戦
8月 OB会/インカレ
9月 夏合宿(山中湖)
10月 関東学生秋季リーグ戦
11月 関東理工科系学生秋季リーグ戦
12月 OB会
3月 追いコン

第89回 関東理工科系大学リーグ戦優勝!

男子も女子もわずか数年で 飛躍的に実力アップ

体育会に所属するソフトテニス部の活動は、春と秋の関東学生(学連)、理工科系の両リーグ戦への参加を主軸に展開されています。驚くべきは近年の戦績。昨年の主将を務めた高林祐輔君(環境エネルギー4年)によれば、「学連は1部を頂点に12部まであり、各部6チームで争います。3年前まで9部に低迷していた僕たちですが、今では5部に昇格しています」とのこと。高林君らが1年生で入部して以来、春秋すべてのリーグ戦で優勝、つねに上部リーグとの入替戦に参戦してきたというのです。

「毎年、3年のキャプテンを中心の部の目標を決めるんですが、僕の時には『リーグ優勝』と『サーブの徹底強化』を打ち出しました。1年経って、その成果が目に見えてきたように思えます」(高林君)。バトンを受け継いだ新主将の早瀬徹矢君(環境エネルギー3年)たちは、「5部での優勝と、サーブ以降の課題に取り組むことに主眼を置きました」。

そして4部入りを目指した2008年春の大会でしたが…「ここ数年で、初めて優勝を逃し、3位に終わってしまいました」と、早瀬君。ワンランク昇格するとともに、対戦校の

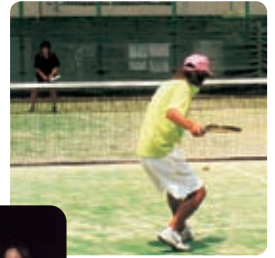


理工科系個人戦(秋)
ベスト3

レベルは格段に高くなります。3位は十分立派な成績と思いますが、「悔しくて、申しわけなくて涙が止まらなかった」と、男子部員はみな唇を噛みしめます。なぜなら彼らの目標は、「どんなに上の部であっても、そこで優勝すること。リーグ戦で勝利して、喜びをみんなで分かち合うことなんです」と語る副主将の岩村隼人君(環境情報3年)。関東理工科系リーグでは、2008年春のリーグ戦で1部優勝を果たして、向かうところ敵なしの我がソフトテニス部ですが、やはり強豪ひしめく学連での成績を何より重要視しているようです。

一方の女子も、その急成長ぶりは男子に引けを取りません。「私たちが入部したときは、女子の先輩が一人もいなかったんです。ゼロからのスタートということで、これまでは10部に甘んじていましたが、2007年秋の学連で優勝して9部に昇格。理工科系では2部リーグで優勝し、念願の1部に昇格することができました」と、女子主将の伊藤友美さん(電子通信3年)。

真剣そのものの練習



山中湖での夏合宿にて



世田谷キャンパス18号館 テニスコートにて

強さの源は他を圧倒する応援とチームワーク

躍進の原動力は、と訊ねると、「いろいろありますが、大きいのは応援ですね」と、高林君。「試合中、チームメイト全員が声を枯らして声援を送るんです。おかげでプレーヤーはものすごい力をもらえます」

その卓越した応援ぶりは他校にとっても脅威なようで、「試合後に対戦相手から、『あの応援はうらやましい』と言われますね。大会では特別に応援の素晴らしさを表彰されたこともあります」と、稲沢優太君(都市基盤3年)が言えば、「うわべだけではなく、みんなが本当に心をひとつにして勝ちたい気持ちを表現しています。個人の力も大切ですが、僕たちの場合、部員一丸となって戦っているんです」と、早瀬君。勝利のためにメンバーがひとつになり、そこで得た勝利が部員の結束をさらに強めていく。そんな良循環が、チーム力を高めているようです。

体育会とはいえ、上下関係の厳しさはほとんどなく、和気あいあいとしたムード。「コートの中では緊張感を持っていますが、練習や試合を離れば、みんなとても仲良く、一人ひとりがかけがえのない親友のようなもの」(早瀬君)。「私は高校まで運動部どころか課外活動に参加したことがなかった。もちろんソフトテニスも初心者で不安でしたが、本当に楽しい人ばかり揃って

るので、すぐに溶け込んでしまいました(大場結衣さん・電子通信3年)。「体育会の中でナンバーワンのおもしろさだと断言しちゃいます」(稲沢君)と、口を揃えて雰囲気の良いさを強調します。

練習場所は世田谷キャンパス18号館のテニスコート。毎週月・水・金の放課後と、土曜日の午前中、ボールを追いかける彼らの必死な姿と、練習後の爽快な笑顔をかいま見ることができます。

「今後の課題は」との問いに、女子主将の伊藤さんは「体育会の一員として、女子も技術を磨き、男子に負けないようにがんばりたい」と力強い返答。そして、「男子は4部、女子は8部昇格を目指します」と、早瀬君。がんばれ、ソフトテニス部。比類ないチームワークを武器に、さらに上へ、上へ！



新主将の早瀬徹矢君(環境エネルギー3年)は、「ひとつの勝利はみんなの勝利です」



「主将を務めた1年間は本当に大変」と、今は笑顔の高林祐輔君(環境エネルギー4年)。



関東理工科系リーグの個人戦で見事3位入賞を果たした稲沢優太君(都市基盤3年)



部員一丸となつての応援



岩村隼人君(環境情報3年)は、「ソフトテニスがいきがい。日々テニスができて嬉しい」



春秋の理工科系個人戦で連続優勝した伊藤友美さん(電気通信3年)は、女子の主将です。



「女子部員が増えてきたから責任重大ですね」と、大場結衣さん(電子通信3年)



テニス & 行事に全力投球。メリハリついた活動で充実の学生生活を送る

テニスサークル Circus



夏合宿に参加しているメンバーで記念写真。
大所帯です

顧問：宮坂榮一（情報メディア学科教授）

学生責任者：脇山一清（環境情報学科3年）

部員数：95名（うち女子20名）

主な活動

- 4月 フレッシュマンキャンプ／花見
- 5月 新入生歓迎会／体育祭
- 6月 MI-TECH横浜祭模擬店出店
- 7月 花火大会見学
- 8月 夏合宿
- 9月 MI-TECHサマーテニストーナメント
- 10月 秋のイベント
- 11月 MI-TECH祭
- 12月 忘年会
- 1月 新年会
- 2月 冬合宿（スキー&スノーボード）
- 3月 MI-TECHスプリングテニストーナメント／追いコン

上級者も初心者もみんなが テニスを楽しめるように配慮

横浜キャンパスで最多規模の会員数を誇るテニスサークル Circus。1997年の創設以来のモットーは、“楽しく、まじめに！”。テニスやさまざまな行事をメリハリつけながら実施しています。

「4月のフレッシュマンキャンプで新入生にアピールしたのは、『初心者も上級者も同じようにテニスを楽しめる』ということ。未経験者はうまい人が多いと気後れしたり、うまい人はビギナーが多いとつまらなく感じてしまったり。でも、Circusは違う。全員、自分が楽しむだけでなく、人を楽しませることを自然に考え、行動しているのです」と、会長の脇山一清君（環境情報3年）。サークル活動で何が一番楽しいか訊ねると「メンバーが楽しそうにテニスをしているとき」と即答が返ってきます。

もっとも大きなイベントは、9月と3月に行われるMI-TECHテニストーナメント。学内4つのテニスサークルが一堂に会して、日頃の成果をコートにぶつけ合います。Circusは毎年好成績を収めており、2008年春の大会では、男子ダブルスで3位、女子ダブルスは1位、2位、4位、



横浜キャンパス・テニスコートでのナイター練習

ミックスダブルスでも2位と4位に入賞しています。大会運営を担当する吉田勇介君（同3年）も、「新入生の6割くらいが未経験者。そんな後輩たちがどんどん上達していくのを見られて幸せです」と、思わずにっこり。

毎週月・水・木の放課後、横浜キャンパスのテニスコートで行われる練習には、常時数十人が参加。毎回2～3時間、うまい人もそうでない人も、等しく爽やかな汗を流します。

「初心者にはテニスの技術はもちろん、試合のルールなどイロハから教えることになりますが、分かりやすく伝えようと努力することで、自分自身のコミュニケーション力も鍛えられているようです」と、副会長の江原理美さん（同3年）が言えば、もう一人の副会長、久米克明君（同3年）も「競い合うことも大切だけど、教え合うことで得られるものはとても大きい」。“みんなが楽しむ”ことの意味を理解し、実践しているようです。

📌 MI-TECHスプリングテニストーナメントで見事入賞！



📌 夏合宿でのビーチバレー。
何をやるにも真剣に



📌 冬合宿はスキーと
スノボを楽しみます

📌 すべての活動を一所懸命行うことで大きな実りを獲得

「テニスだけでなく、他の行事にも本気で取り組んでいます」と言うのは、中野崇君(情報メディア3年)。「隅田川花火大会では、前日から場所取りのために泊まり込んだり。忘年会や新年会でも、40名近くの大人数が集まるので、みんなが節度を守って、有意義な時を過ごせるよう心配りするのはなかなか大変です」。

6月にはMI-TECH横浜祭で模擬店を出店するほか、シーズンごとにボーリング大会や焼き芋大会など、メンバーの親交を深めるためのイベントを企画し、実行しています。

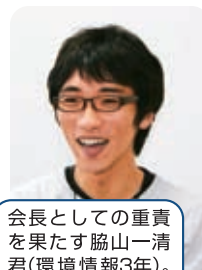
なかでも夏合宿と冬合宿はテニストーナメントと並ぶサークルの一大行事。「2008年の夏は千葉県の白子海岸で4泊5日の合宿を行いました。練習、チームに分かれての試合、卒業生とのエキシビジョンマッチなどに加えて、ビーチバレーや、バーベキュー、肝試しといったレクリエーションも盛りだくさんです」と、合宿幹事を務める安藤大康君(環境情報3年)。みんなを楽しませるための苦労は並大抵ではなかったと言います。「冬合宿は、なぜかスキーとスノーボード(笑)。夜行バスで現地に着いたら、そのまま一日滑りまわります」

高校時代は人見知りがひどかったという内藤愛子さん(同3年)は、「一つ行事をこなすごとに、どんどん自分の心が広がっていくのが分かりました。今では臆することなく自分の意見を人前で言えるようになり、就職活動にも活かそうです」と、サークル活動の意外な効果に大満足。さらに、学業や将来の進路決定にも役立っているとの声も聞かれます。

「なにせ90名以上のメンバーがいるわけですから、授業の合間にカフェやラウンジに行けば、必ず誰かと会える。互いに得意科目を教え合ったり、将来の夢を語り合ったり。本当にかけがえのない友達がたくさんできました。すごい財産です」(安藤君)。

会長の脇山君は、この1年を振り返って、「自分が楽しくなければ、みんなも楽しくならないということが分かりました」と、語ります。「虫の居所が悪かったり、面倒臭いと思ったり、そうした気分は、すぐにみんなに伝わるんです。何よりこの組織が大好きで、自分自身が楽しんで活動すること、それがメンバーを楽しませるために一番大切なことではないでしょうか」。

その言葉に大きく頷く一同。みなさん心からCircusを愛しているんですね。



会長としての重責を果たす脇山一清君(環境情報3年)。進学か就職か、それが問題だ。



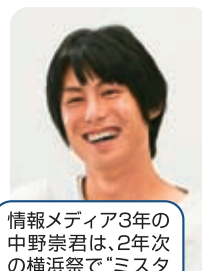
副会長の久米克明君(環境情報3年)。テニス灼けた黒い顔に白い歯が印象的です。



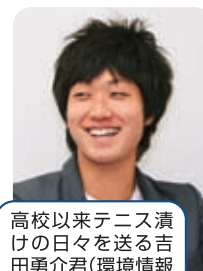
「次の大会で良い成績を残したい」と言う、副会長の江原理美さん(環境情報3年)。



合宿幹事を務める安藤大康君(環境情報3年)。将来の夢は「国際物流に関わること」。



情報メディア3年の中野崇君は、2年次の横浜祭で「ミスター・武蔵工大」に選出！



高校以来テニス漬けの日々を送る吉田勇介君(環境情報3年)は大会運営で手腕を発揮。



会計担当の内藤愛子さん(環境情報3年)は、「部費を徴収するのが一番つらかった」。

新しい大学の新しい後援会会誌へ

武蔵工業大学の英略称「MI-TECH」と「COMMUNICATION」とを融合した誌名を冠して、1989年12月に創刊された本誌。以来約20年間にわたって多数の会員の皆様にご愛読いただいております。2009年4月より、大学名が東京都市大学へと変更されることに伴い、長年親しまれた「MI-COM(マイコム)」の名称とも今号でお別れです。感謝の気持ちを込めて、ここに創刊号から39号まですべての表紙を掲載いたしました。次号からは新しい誌名で皆様のもとにお目見えいたします。今後ともよろしくお願いいたします。



✧◆◆ 平成20年度 ◆✧ 「大学と父母との連絡会」実施結果 ✧◆◆

平成20年度の「大学と父母との連絡会」は9月6日(土)から始まり、最終日の9月27日(土)東京・横浜地区までの間、全国22会場において開催されました。各会場の出席状況は下記のとおりで、各地区において評議員の方々には運営等にご協力いただきました。

✧ 会場別出席世帯数(対象県以外からの出席者を含む)

開催地	開催日	会場名	出席世帯数
札幌	9月 6日(土)	札幌全日空ホテル	9
仙台	9月 6日(土)	ホテルJALシティ仙台	19
郡山	9月 7日(日)	ホテルプリシード郡山	13
水戸	9月 6日(土)	ホリデイ・イン水戸	35
宇都宮	9月 6日(土)	宇都宮ポートホテル	23
さいたま	9月 7日(日)	浦和ロイヤルパインズホテル	26
東京	9月27日(土)	武蔵工業大学 世田谷キャンパス	643
横浜	9月27日(土)	武蔵工業大学 横浜キャンパス	230
高崎	9月14日(日)	ホテルメトロポリタン高崎	12
新潟	9月13日(土)	ホテルイタリア軒	12
甲府	9月 6日(土)	ホテル談露館	22
長野	9月 7日(日)	ホテルJALシティ長野	16
富山	9月14日(日)	名鉄トヤマホテル	7
金沢	9月13日(土)	金沢都ホテル	9
三島	9月 6日(土)	ホテル・エルムリージェンシー	31
静岡	9月 7日(日)	ホテルセンチュリー静岡	54
浜松	9月 6日(土)	オークラクトシティホテル浜松	21
名古屋	9月 7日(日)	ホテルアソシア名古屋ターミナル	21
広島	9月 6日(土)	リーガロイヤルホテル広島	14
福岡	9月 7日(日)	ホテル日航福岡	17
松山	9月13日(土)	松山東映ホテル	2
鹿児島	9月 6日(土)	ブルーウェーブイン鹿児島	10
合 計			1246

◆ 都道府県別出席世帯数

都道府県名	出席世帯数	前年度出席世帯数
北海道	9	13
青森	2	1
岩手	1	0
宮城	16	15
秋田	1	2
山形	2	2
福島	18	24
茨城	61	58
栃木	37	48
群馬	19	12
埼玉	76	77
千葉	59	65
東京	232	230
神奈川	397	391
新潟	16	14
富山	8	10
石川	8	9
福井	2	0
山梨	34	40
長野	27	20
岐阜	5	3
静岡	133	109
愛知	22	20
三重	3	4
滋賀	0	0
京都	0	0
大阪	0	0
兵庫	1	0
奈良	0	0
和歌山	2	1
鳥取	1	0
島根	2	2
岡山	1	0
広島	12	7
山口	2	1
徳島	1	3
香川	1	0
愛媛	2	2
高知	1	2
福岡	14	18
佐賀	0	0
長崎	4	3
熊本	1	3
大分	1	3
宮崎	1	4
鹿児島	11	9
沖縄	0	6
合 計	1246	1231